

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	15-129	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Interactions between uncoupling protein 2 gene polymorphisms, obesity and alcohol intake on liver function: a large meta-analysed population-based study. 肝機能について脱共役タンパク UCP2 遺伝子多型と肥満、飲酒の交互作用：大規模メタアナリシス		
執筆者 Vimalleswaran KS, Cavadino A, Verweij N, Nolte IM, Mateo Leach I; LifeLines Cohort Study, Auvinen J, Veijola J, Elliott P, Penninx BW, Snieder H, Järvelin MR, van der Harst P, Cohen RD, Boucher BJ, Hyppönen E.		
掲載誌 Eur J Endocrinol. 2015 Dec;173(6):863-72. doi: 10.1530/EJE-15-0839.		
キーワード	PMID	
UCP2 遺伝子多型、肥満、肝機能、交互作用	26526553	
要 旨 目的： UCP2 遺伝子多型は肝細胞への脂肪蓄積作用やアルコール障害の防御増強作用を示し、肥満やアルコール摂取との交互作用により肝機能障害を引き起こす可能性がある。ALT、 γ GTP についての UCP2 遺伝子多型 (rs2306819、rs599277、rs659366) と飲酒、BMI や臍周囲径の交互作用をメタアナリシスで明らかにする。 方法： Northern Finland Birth Cohort 1966 (n=4996)、Netherlands Study of Depression and Anxiety (n=1883)、LifeLines Cohort Study (n=13363) の3コホート合計 20,242 人を分析対象とした。ALT50 以上、 γ GTP58 以上 (男性) を肝機能障害と定義し、ロジスティック回帰分析にて UCP2 遺伝子多型と飲酒、BMI や臍周囲径との交互作用を求めた。 結果： 前述の3つの UCP2 遺伝子多型は γ GTP や ALT と関連がなく、飲酒との交互作用も認めなかった。一方、年齢、性別、多量飲酒、糖尿病、高血圧、脂質プロファイルを調整すると、 γ GTP は、rs659366 遺伝子多型と肥満指標との交互作用を認めた(臍周囲径(p=0.03)、 γ GTP、BMI(P=0.007))。 結論： UCP2 遺伝子多型は飲酒より肥満との交互作用により肝機能障害を引き起こす可能性がある。		